

事業成果報告書

1. 教育委員会名 : 栃木市教育委員会
2. 研究主題 : 小規模校を存続させる場合の教育活動の高度化
3. 研究タイトル : 小規模校を活性化させるための教育活動の高度化
～小規模校のメリットを生かしデメリットを解消するための研究～
4. 研究課題 :
- (1) 小規模校のメリットを最大化させる方策
 - ア. 少人数であることを最大限に生かした教育活動に関する研究
(研究課題)
 - ①きめ細かな指導による学力の向上
 - ②低学年からの英語教育によるコミュニケーション能力の育成
 - ③各種検定制度を活用した学習意欲の向上
 - ④ICT機器活用及びプレゼンテーション能力の向上
 - イ. その他、創意工夫を生かして小規模校や複式学級設置校のメリットを最大化させる先進的な方策
(研究課題)
 - ①プロの朗読家等の活用による自己表現パフォーマンスの向上
 - (2) 小規模校のデメリットを最小化させる方策
 - ア. 学校間ネットワークの構築
(研究課題)
 - ①ICT活用等による多様なコミュニケーションの確保
 - イ. 社会教育と密接に連携した学校教育活動
(研究課題)
 - ①「とちぎ未来アシストネット」事業と連携した多様なコミュニケーションの確保。
 - ウ. 児童生徒の増加や児童生徒集団の多様性確保
(研究課題)
 - ①小規模特認校制度を活用した児童数の増加
 - エ. その他、創意工夫を生かして小規模校や複式学級設置校のデメリットを最小化し、メリットを最大化させる先進的な取組
(研究課題)
 - ①学校の「コミュニティ・スクール」化を図り、地域連携のプロジェクトを行う。

5. 事業の実績

(1) 調査研究のねらい

・少人数に対応したきめ細やかな指導をはじめ、英語教育やICT教育等を進めることにより、小規模校の課題である児童のコミュニケーション力の向上を図る。
・コミュニティ・スクールを導入し、地域との連携を図りながら学校の特色ある教育を進める。

(2) 調査研究の実施状況（平成28年度）

7月	・朗読パフォーマンス・詩作教室開催（第1回） ・朝の学びタイム・放課後教室開始（年間通して） ・「とちぎ未来アシストネット」との協働授業開始（年間通して） ・オンライン会議システム等を活用した他校との合同授業の実施
8月	・「少子化・人口減少に対応した活力ある学校教育推進事業」推進会議実施 ・「地域とともにある学校づくり」推進フォーラム参加
9月	・小規模特認校保護者説明会開催 ・タブレットPCを活用した教育の実践開始
10月	・「漢字検定（日本漢字能力検定協会）」（第1回目）実施
11月	・朗読パフォーマンス、詩作教室開催（第2回） ・オンライン会議システム等を活用した他校との合同授業の実施
2月	・各学校における小規模特認校推進委員会開催
3月	・朗読パフォーマンス、詩作教室開催（第3回）

6. 事業の成果

(1) 研究課題に応じて設定した具体的目標に対する達成状況

<p>研究課題「小規模校のメリットを最大化させる方策」については、学力・コミュニケーション能力・学習意欲・表現力等の向上を目標に、「個別学習の充実」「低学年からの英語教育の実施」「漢字検定（公益財団法人日本漢字検定協会）の実施」「タブレットの活用」「外部人材の活用」等の具体的な方策を行った。 実践においては、児童の少なさがメリットとなり、一人一人の活動の充実が図られた。この傾向は、特に主体的な体験活動において有効であった。</p>
<p>研究課題「小規模校のデメリットを最小化させる方策」については、主にコミュニケーション能力の向上を目標にして、「他校とのオンライン会議システムによる交流」や「地域人材活用による多世代交流」「コミュニティ・スクールの充実」等の具体的な方策を行った。 実践においては、地域を広げた子ども同士の交流に加え、子どもと大人の交流が進められ、子どもたちの様子からは積極的に他者と関わろうとする態度が見られた。</p>
<p>今年度の研究実践において、特に重点化して取り組んだ実践としては、外部人材講師の活用とタブレット等のICT教育関連機器の整備があった。研究校4校のうち1校の研究まとめを成果物としての事例として報告する。</p>

(2) 成果物等

小規模認定校パンフレット（4校分）

(3) 今後の取組予定

<p>事業1年目であるH28年度においては、各校における地域連携を進めるとともに外部講師の活用やICTの整備等を図った。次年度については、このことを踏まえ、各小規模校での特色ある教育の充実を更に図ることを考えたい。 特に、ドリアン助川氏等による外部講師の活用は、児童のコミュニケーション能力や表現力の向上に有効と考えられたので、次年度は研究校4校それぞれについて、その視点での研究実践を進めていきたい。 また、成果の把握については児童を対象とした意識調査を行い、その変容についても考察していきたいと考える。</p>
